

<b>第2回 西区の温故知新！魅力アップ検討委員会 議事録</b>	
日 時	平成23年12月16日（金） 10:00～12:00
開催場所	西区役所 3AB会議室
出席者	<p>【委員】大江 守之、岩崎 忠雄、金子 勝雄、林 和明、斉藤 攻、渡辺 輝夫、山下 順三、嶋田 昌子、茂木 重樹、竹谷 英樹（代理出席：江成 政義）、大石 恒夫、柳川 正久、佐野 洋志（敬称略）</p> <p>【オブザーバー】都市整備局都市再生推進課横浜駅周辺担当 同 都市再生推進課地域再生まちづくり担当 同 都市交通課都市交通経営担当 同 みなとみらい21推進課 文化観光局創造まちづくり課</p> <p>【事務局】副区長、西土木事務所長、地域振興課、区政推進課</p> <p>【コンサルタント】(株)都市・建築環境研究所</p>
開催形態	公開（傍聴者：タウンニュース記者 1名）
議 題	<p>1. 第1回委員会でのご意見を踏まえた魅力アップ施策の方向性の検討</p> <p>2. 魅力アップ施策のモデル実施について</p>
議 事	<p>■主な意見</p> <p><u>1. 「東横線跡地整備事業 概要」について（参考資料1）</u></p> <p>（委員） 東横線跡地は、どういう人がどのように利用するかを考えて検討しているのか。</p> <p>（オブザーバー） 観光客、市民ともに利用すると考えており、回遊性を高めるために使っていきたい。旧桜木町駅舎の解体スケジュールが決まっているのみで、（跡地整備の）細かい内容は決まっていない。</p> <p>（委員） 遊歩道はとして整備されると、（桜木町駅から見て）右に新しい西区、左に古い西区を見ることができ、大変面白いと思うが、掃部山公園へ行く動線が欠けている。岩亀横丁からの道と紅葉坂の道は殺風景であり、ここを緑で埋めるなど、どう作っていくかが回遊性につながる。</p> <p>（委員） 是非、みなとみらい21地区（以下「MM地区」とする）を含めた回遊性を高めるように考えてほしい。</p> <p>（座長） 東横線跡地は、うまく使えれば魅力的になるのでよく検討してほしい。</p> <p><u>2. 「掃部山公園魅力アップ検討事業 概要」について（参考資料2）</u></p> <p>（委員） 掃部山公園へは戸部方面からと、紅葉坂からの2方向のルートがあるが、掃部山公園に紅葉を採り入れたらどうか。</p> <p>（事務局） 掃部山公園改修計画の「花の雑木林ゾーン」で「紅葉坂と連携してカエデ類による紅葉の名所をつくる」という魅力アップ策を示している。</p> <p>（委員） 掃部山公園は、常緑樹が多いせいで暗いイメージがある。また、日本庭園も水が汚く明るいイメージがないので、防犯の観点からも公園全体を明るくしてほしい。</p>

	<p>(事務局)</p> <p>木が大きいことで暗くなっていることもあるので、木を切ることも考えている。また、水については新しい循環装置を入れる計画である。</p> <p>(座長)</p> <p>日本の公園は木を入れることを中心に行っていることが多く、しかも公園にある木はよく育つ傾向にあるので、明るくなるようにしていく必要はある。</p>
	<p><b>3. 「第1回委員会でのご意見を踏まえた魅力アップ施策の方向性の検討」について (資料2)</b></p> <p>(委員)</p> <p>MM地区の20万人の来街者、従業者の1%でも旧市街地側に来てくれないかと願っている。掃部山公園が近くなるように、雪見橋からまっすぐMM地区に抜けられるようになるとうい。</p> <p>(座長)</p> <p>前回の議論でも、雪見橋からまっすぐ抜くのは難しいという話があったが、東横線廃線跡地利用とも関連してくるので、時間をかけて検討する必要がある。</p> <p>(委員)</p> <p>MM地区は地区内で完結しており、魅力アップのためにはアクセス動線の確保が重要である。どんなにまちが魅力アップしても、アクセスが出かけるときの制限とならないようにすることが重要である。また、公園を造ったら、その後の管理・活用が重要であり、そこが共通の話題となるような盛り上げる施策も必要である。</p> <p>(座長)</p> <p>魅力アップには、いろいろなテーマがあるということだが、空間を改変しながら作っていく魅力とともに、どう動くかということにもいろいろな発想があると思う。必ずしも雪見橋からの道が抜けなくても、動ける方向、ルートを考える必要がある。</p> <p>(委員)</p> <p>ルートだけでなく歩きやすさなども考えないといけない。</p> <p>(委員)</p> <p>回遊性というのは、MM地区の開発前から大きなテーマとなっている。MM地区は、遠方からのアクセスはよくなっているものの、周辺地区とのアクセスには有効な策が取れていない。</p> <p>これは、首都高と鉄道が大きな障害となっているためであるが、この障害を前提として、互いの街を行き来することを考えなければならない。ハード面では雪見橋からのルートを含めた再検討、ソフト面では魅力のあるところがあれば人は探してでも行こうとすることから、イベントなどで連携していくことも有効だと思う。是非、知恵を合わせて工夫していきたいと思う。</p> <p>(委員)</p> <p>魅力アップのための施策とともに、だれを対象とした魅力アップなのかの二点が重要である。MM地区の観光客の中には、野毛が最も印象に残ったという人もいるように、ちょっと足をのぼしただけで魅力を発見できるということもある。</p> <p>また、西区民、企業区民、来街者の誰を対象とするかで魅力付けは違うと思う。最も人数が多いと思われる来街者は、車で来る人も多く、その場合はどうするのかということなど、対象者によって検討事項は異なる。</p> <p>(座長)</p> <p>魅力アップには、その対象者の視点が必要である。</p>

#### 4. 「魅力アップ施策のモデル実施」について（資料3）

（座長）

野毛の魅力、岩亀横丁の魅力は、回遊性を高めるのに適していることから、モデル事業を中区と共同で行うことはできないか。

（事務局）

MM地区も西区から中区にまたがっていることもあるので、柔軟に考えていきたい。

（委員）

明治中期、紀行作家エリザ・シドモアの尽力で横浜港から送られ、ワシントン市ポトマック川畔に桜が植えられてから100年となる来年、里帰りする桜を横浜道に植えようというアイデアがある。ポトマック川の桜は長い期間見られるように多種の桜を贈っているが、この考え方を採り入れ、ソメイヨシノだけでなく多種の桜を植樹することを考えられないか。

（座長）

MM地区の小学生は中区の本町小学校に通学しており、モデル事業においても桜木町の駅がポイントになる。また、駅を取り壊したあとの空間も西区と中区をつなぐポイントとなる。

桜にまつわる話もそうだが、物語があるというのは楽しい魅力となる。

（委員）

江戸時代には伊勢山の桜を江戸から舟を仕立てて見に来ていたというほど有名であるので、桜だけではなく、秋は紅葉、冬は牡丹というように四季を通じて楽しむようにしてはどうか。

（事務局）

今回のモデル施策は春の実施を考えているが、四季を通じたものなどは、今後の検討、指針において採り入れたい。

（委員）

東横線廃線跡地の遊歩道から下に降りて街へ行くということを考えると、街のなかに自転車のスペースを作るなど、跡地活用における検討の中で考えることが重要である。

以前、掃部山で薪能をやっていた時には、桜木町駅と戸部駅から提灯で道案内をしたが、お金がかかりすぎてやめてしまった。しかし、道案内をすることで人の動線が変わることは間違いない。

（委員）

今回のモデルのルートを見ると横浜道が中心で、西区民の住んでいる市街地の真ん中を通っており、MM地区から人を引き寄せ、旧市街地側に集める施策であると思う。この取組は、子どもたちが歴史を振り返るためのチャンスともなると思う。

（委員）

モデル事業における「さくらフェスタ」の位置付けは重要である。人の交流を意識的にやっていくことが必要である。

（座長）

東横線に関する意見が多かったのは、西区にとって非常に重要であるからだと思う。ニューヨークのハイラインもそうだが、市民が参加して魅力を作っていくことも重要なのではないか。

（事務局）

本日はありがとうございました。本日の議事録は、前回同様、事務局で作成後、次回の委員会で皆様に内容をご確認いただき、ホームページに公開していきます。

次回の第3回検討委員会は、来年2月中旬に開催を予定しております。

（以上）

